

上川陽子茶業会議所会頭との意見交換会

日時：平成 30 年 11 月 5 日 午後 1 時～
場所：沼津市 AOI-PARC

1 出席者 別紙

2 生産者の意見

- ・遅場所なので、相場に左右されて、常に低価格の値段でスタートする。
- ・品質のいい物が評価されない。
- ・経営が安定できないので、複合経営で生計をたてているが、ほかの作物が優先されて生葉の確保も難しくなっている。
- ・高齢化による担い手不足も深刻で、耕作放棄茶園が今後もすすむ。
- ・茶商とのすり合わせをし、ニーズにあった茶の製造に努めているが、微妙な違いにより、安定した価格が難しい。契約し製造しても、契約内容のとおりいかいない。
- ・県内より九州のお茶をてあてしている印象がある。特に、東北大震災以降、その傾向が強い。
- ・お茶の文化が廃れている。購買年齢が、60代が主であるが、最近、20代の需要が伸びてきていると聞く、これからは、若い世代へのPRが必要。
- ・取引時間が年々早くなっている。条例などを制定して、労働時間を決めて欲しい。取引時間を7時にして欲しい。この状況では、販売員の引継も進まない。
- ・要望により有機栽培に取り組んでいるが、諸経費がかかりすぎる。有機の場合は、除草の手間が大変で、2番茶の製造はむずかしく、高値で買ってくれない。
- ・販路を海外に向けようとするが、農薬基準が高いハードルとなっている。
- ・離農者も多く、茶園を借りて規模拡大も限界にきている。
- ・若い人へのPRが必要、最近、20代の消費が伸びていると聞く。
- ・経営安定のため、最低価格の保証が欲しい。

3 茶商の意見

- ・リーフ需要を伸ばすためにも、消費拡大しかない。
- ・朝ごはんを食べない家庭が増加している。生活環境の変化を掌握する。
- ・沼津や富士の地区の茶は、ニーズにあった茶の対応できていない。
- ・補助金による荒茶工場の大型化や仕上げ機械の導入による6次産業化は、九州の後追いをしている。
- ・表示問題（〇〇産100%）が販売の自由を損ねている。
- ・九州のお茶は、いいお茶が静岡県には入ってこない。現地問屋の残りが静岡に来る。

4 まとめ

- ・儲かるビジネスモデルを作っていく。
- ・生産と仕入れのマッチングを強化する。
- ・ドリンク向けに安定した売り先との連携も考える。
- ・働き方改革の一環として、茶取引時間の見直しが必要。
- ・消費拡大を強化し、茶価の安定が必要
- ・次世代に向けた消費拡大の一環として、愛飲条例に関連する事業の掌握（学校でどのくらい消費されているのか等）
- ・若い世代へのお茶の「かっこよさ」を追求するPRが必要

5 写真



上川陽子茶業会議所会頭との意見交換会出席者

平成30年11月5日(月)

区分	所 属	役 職	氏 名	備 考
団体行政	茶業会議所	会頭	上川陽子	
	"	専務	小澤俊幸	
	静岡県お茶振興課	課長	望月辰彦	
	"	班長	増田浩章	
	県経済連	茶業部長	堀 要	
	"	茶業課長	真田泰伸	
茶商	(株)山大園	社長	渡辺栄一	
	石田茶業	社長	石田義雄	
生産者	JAなんすん	理事	山田 和彦	JA理事
	" 茶業連合会	会長	佐野良一郎	茶生産者
	" 荒茶共販委員会	委員長	小野 廣行	茶生産者
	" 営農生活部	次長	小林伸一郎	JA職員
	" 西部営農経済センター	代理	石橋 周一	JA職員
	JA富士市茶業部会	部会長	渡邊 誠	茶生産者
	" 荒茶共販委員会	委員長	勝亦 英介	茶生産者
	" 営農販売課	係長	齋藤 匠	JA職員
	" 営農販売課	係長	高岡 和彦	JA職員
	JA富士宮茶業委員会	委員長	佐野 俊英	茶生産者
	" 荒茶共販部会	部会長	松田 正文	茶生産者
	" 生産指導課	担当	遠藤 義典	JA職員
事務局	茶業会議所	総務部長	天野尊人	
	上川陽子事務所	秘書	村松潮見	
				(22名)